

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580129

研究課題名(和文) フィリピン語辞典編纂のためのコーパス構築と携帯端末用アプリの開発研究

研究課題名(英文) The Construction of a Filipino Language Corpus for the Compilation of  
Filipino-Japanese Dictionary and the Development of its Mobile Terminal Application

研究代表者

大上 正直 (OUE, Masanao)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：30233034

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本人フィリピン語学習者用「フィリピン語辞典」編纂のための大きな規模のコーパスを構築した。この作業および辞書データベースの作成には、将来における正式版のアプリ開発も視野に入れ、かなりの時間を割いた。最後に上記辞書データベースのうち頻度の高い約300語の語根と1,800語の派生語を選定し、理系大学院生の協力を得て、アンドロイド系アプリの作成支援ツールを用いて当初の計画どおり上記辞典試作版アプリを試験的に開発した。

研究成果の概要(英文)：I constructed a large-scale Filipino language corpus for the compilation of Filipino-Japanese Dictionary which is intended for Japanese learners. This construction and entering database for the said dictionary took a long duration, considering the future release of a regular application. And after selecting 300 frequently used root words and 1,800 derivatives from among the dictionary database, I, with the help of a graduate student majoring in engineering, experimentally produced the trial version of the application as originally planned, using a development supporting tool.

研究分野：フィリピン語学

キーワード：フィリピン語辞典 辞書論 コーパス言語学 アプリ開発

## 1. 研究開始当初の背景

わが国とフィリピンの関係が緊密化し、官民双方における人流の増加に伴い、フィリピン語の学習者も次第に増加し、とくに在日フィリピン人の数は208,884人で(法務省、2011)わが国在住の外国人の中で第4位(2015年末時点では229,595人で中国人、韓国人に次いで第3位)となっている。このような状況下において、申請者(研究代表者)は1991年より旧大阪外国語大学および大阪大学(大学院・学部)においてフィリピン語(タガログ語)の教育研究に従事してきたが、当初日本語で書かれた教材はほとんどない状況であったため、1994年に文法書の『フィリピン語文法入門』(白水社)、2004年にフィリピン語入門書の『はじめてのフィリピン語』(ナツメ社)、そして2012年に総合テキスト・学習書の『世界の言語シリーズ6 フィリピン語』(大阪大学出版会)などを出版し、学習用の基本ツールの整備に努めてきた。他方、言語学習にとってもう一つの不可欠なツールである辞書についてもわが国においては学習に耐え得るものがほとんどない状況に鑑み、1995年よりフィリピン語辞典(仮称)の編纂に取り組み、フィリピンで出版された主要な辞書や、データのまだ十分でない私家版のフィリピン語コーパスにもとづき見出し語(主見出し<語根>および下位見出し<派生語>)の選定を行い、今日まで語義、用例などの入力作業を行ってきた。

## 2. 研究の目的

マイナー言語の辞書は、通例、価格が極めて高い、語彙数が限られている、用例が限られている、主要な図書館にしか所蔵されていない、などの問題点を抱えているが、紙媒体の辞書が非常に充実している主要な言語でさえアプリ化がどんどん進んでいる昨今、マイナー言語についても商業ベースに乗りにくいものは、携帯端末用アプリとして学習者に提供するのが最も現実的な方法

であると考え。なぜならば、情報量に制約がなく、かつ誰もが容易に入手可能であり、マイナー言語の辞書編纂の大きな障害となっている上記 ~ のような問題をほとんど解決することが可能だからである。

## 3. 研究の方法

研究の方法・手順の概要は以下のとおりである。

### (1) フィリピン語コーパスの構築

辞書のアプリを作成するためには、まず基礎データの整備が極めて重要である。そのためには必要な時にはいつでも参照可能な信頼できるコーパスを構築することが不可欠である。そこで、小説、新聞、教科書などの書き言葉のデータを、またフィリピン大学関係者など協力を得て日常会話などの話し言葉のデータを、それぞれ可能な限り大量に収集する。

### (2) 辞書データベースの作成

見出し語(主見出し<語根>、下位見出し<派生語>)、品詞、語義、上記(1)のコーパスなどにもとづいた用例、用例の日本語訳などからなるデータベースの作成を時間をかけて入念に行う。

### (3) 高頻度の基礎語彙(語根)のうち300語程度(含む1,800語に及ぶ派生語)に絞った

アプリ(試作版)の試験的開発

アプリ開発のノウハウを有する理系の大学院生の協力を得る。

## 4. 研究成果

(1) 日本人フィリピン語学習者のための「フィリピン語 - 日本語(比日)辞典」編纂のためにこれまでに構築した、フィリピン語としてはかなり大きな規模のコーパスに基づき辞書のデータベースの入力作業を、将来における正式版アプリの開発も視野に入れなが

ら、かなりの時間をかけて入念に行った。

(2)上記(1)の作業と並行して、上記(2)の辞書データベースのうち頻度の高い約 300 語の語根と 1,800 語の派生語を選定し、理系の大学院生の協力の下、アンドロイド系アプリの作成支援ツールを用いて、当初の計画どおり「フィリピン語 - 日本語 (比日) 辞典」試作版アプリを試験的に開発した。具体的な開発プロセスの概要は次のとおりである。

辞書データベース (語根 <300 語>、派生語 <1,800 語>、品詞、語義、フィリピン語用例、用例日本語訳より構成) をデータベース (= テキストファイル) として使えるように整備。

上記のデータベースをアプリに読み込ませ LIST (保存データベース一覧) に保存する機能作成。

ユーザーが LIST から 1 つのデータベースを選択するとそれがアルファベット順に並ぶ機能作成 (スクロールすると目当ての検索語を探し、それを押せば語義、用例、および用例日本語訳が見られる)。

さらに、「検索語入力欄」を設け、そこに検索語を入力し、GO (ENTER) か RETURN を押せば語義などにたどり着ける機能作成。

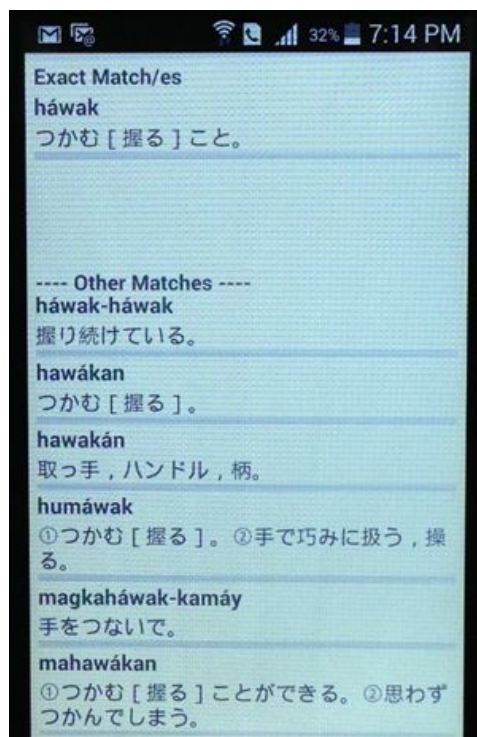
なお、検索語が派生語の場合、語根が何かであるかを知るために接辞を自動的に削除してくれる便利な機能を追加 (語根が見つかりとユーザーはその下位にある目当ての検索語 (派生語) とその語義などを探せる)。

ユーザーがさらに新しい単語・派生語を

検索したい場合、BACK KEY (「戻る」) で元の画面に戻る機能を追加。

この試作版はコンテンツをさらに充実させ将来的に正式版として携帯端末で使えるようにしたいと考える。

(3)アプリ (試作版) のスクリーンショット  
以下は háwak (つかむ [握る] こと) の検索結果である。「完全一致 (= 語根)」と「当該語根のすべての派生語」の双方が検索結果として表示される。さらに、これら派生語一覧のいずれかを押せば語義のみならず用例、用例日本語訳なども検索可能。



5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔その他〕(計 1 件)  
大上正直、Manguilimotan, Erlyn Quioco  
比日辞典 (試作版アプリ) 2015

(頻度の高い約 300 語の語根と 1,800 語の派生語を選定し、理系の大学院生の協力の下、アンドロイド系アプリの作成支援ツールを用いて、当初の計画どおり「フィリピン語 -

日本語（比日）辞典」試作版アプリを試験的に開発した。）

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

大上 正直（OUE, Masanao）

大阪大学大学院言語文化研究科・教授

研究者番号：30233034